

「防災スペシャリスト養成」有明の丘研修 令和5年度 第1期

「警報避難」コース

【各講義の内容と学習目標】

オンデマンド：R5年9月19日（火）～ 10月15日（日）

演習：R5年10月11日（水）

形式	単元No.	単元名	単元の概要	講義No.	時間	講師	学習目標	
オンデマンド 講義	1	警報避難総論	警報避難対策の基本的な考え方と事前対策を学ぶ。	1	58分	井ノ口 宗成（富山大学）	<ul style="list-style-type: none"> 警報等の伝達及び避難誘導の目的、実施主体と役割について説明できる。 警報等の伝達及び避難情報の判断・伝達の流れについて説明できる。 	
	2	警報等の種類と内容	警報等の種類と内容、伝達を学ぶ。	2	111分	森 浩俊（気象庁）	<ul style="list-style-type: none"> 注意報と警報、特別警報の意義付けと意味について説明できる。 警報等の入手方法と伝達にかかる主体について説明できる。 	
	3	避難情報の発令判断・伝達等	避難情報の判断と伝達方法について学ぶ。	3	42分	岩井 真央（内閣府）	<ul style="list-style-type: none"> 住民等の避難行動の考え方について説明できる。 災害ごとの避難準備情報や避難指示等の判断に必要な考え方について説明できる。 避難情報を住民に伝達し、周知するための伝達方法について説明できる。 	
	4	土砂災害における警報と避難	土砂災害における警報と避難の実務について学ぶ。	4	66分	大野 宏之（全国治水砂防協会）	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害における警報と避難の実務について説明できる。 土砂災害における避難の注意点を説明できる。 土砂災害の前兆現象について説明できる。 	
	5	風水害における警報と避難	風水害における警報と避難の実務について学ぶ。	5-1	31分	大滝 豊（新潟県村上市）	<ul style="list-style-type: none"> 風水害における警報と避難の実務について説明できる。 水害時における災害対応の難しさを説明できる。 	
				5-2	34分	高野 正己（新潟県関川村）		
				5-3	58分	高木 康伸（気象庁）		
	6	南海トラフ地震臨時情報	地震災害の警報と避難について学ぶ。	6-1	8分	小門 研亮（内閣府）	<ul style="list-style-type: none"> 南海トラフ地震臨時情報が導入された背景や意義が説明できる。 南海トラフ地震臨時情報が発表された際にとるべき防災行動が説明できる。 日本海溝・千島海溝沿いにおける後発地震への注意を促す情報についての概要を説明できる。 	
				6-2	19分	丹下 豪（気象庁）		
				6-3	24分	小門 研亮（内閣府）		
				6-4	13分	小門 研亮（内閣府）		
	7	個別避難行動の支援と計画	円滑かつ迅速な避難を実現するための個別避難計画の役割と避難行動支援の考え方を学ぶ	7	29分	藤田 亮（内閣府）	<ul style="list-style-type: none"> 避難行動要支援者の避難行動支援に関する取組指針の改定の経緯を説明できる。 取組指針の改定の全体像を説明できる。 個別避難計画がなぜ必要なのかを説明できる。 個別避難計画の対象者を説明できる。 	
	対面 演習	8	【実務担当】 風水害からの警報避難における情報処理	【実務担当】 風水害を対象として避難判断を支える警報情報や各種情報の処理の流れを演習形式で学ぶ。	8		井ノ口 宗成（富山大学） 越野 修三（元 岩手県防災危機管理監） 高木 康伸（気象庁）	<ul style="list-style-type: none"> 連絡・調整の意義を理解することができる。 今後にくるであろう「気象状態や社会状態」を推測できる。 避難発令に向けた調整先の範囲・調整事項を検討できる。
			【一般管理】 風水害からの警報避難における意思決定	【一般管理】 風水害を対象として警報情報の活用と避難にかかる意思決定の流れを演習形式で学ぶ。				